

やるぞストライキ！

日刊 動労千葉

1988.4.27
No. 2805

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二・〇七

第2回青年部長会議開く やる気を分へ闘いの先頭へ

四月二四日、千葉県労働者福祉センターにおいて第二回拡大青年部長会議が開催された。全支部より結集した二八名の青年部役員は、ストライキ方針の先頭で闘うことを決定した。怒りを行動へ！全組合員はスト方針のもとに結集し、臨時大会の成功をかちとろう！

スト決起の方針を決定！

十時すぎ、内田常任（滑河駅）を議長に選出し会議は始まった。

杉本青年部長あいさつに続いて、本部水野副委員長は「本格的な激突が始まった。命運をにぎっているのは青年部だ。青年労働者の闘いは、鉄道労連を解体し、未来を獲得するだろう。胸をはって生きられるように団結した組織をつくろう。臨大に総結集してほしい」と述べた。

続いて、常任委員会が、この間の総括と情勢・方針を提起した。

①東日本六万人体制の突破口として「六三・三ダイ改」大合理化を見すえ、三・一一運行部抗議デモの先頭で青年部が闘ってきた。

②アメリカ経済の没落と日米摩擦。保護主義の本格化は「新たな戦前」の始まりである。

③「四・一一体制」のとりもどしをかけ、決着をつけようとする動労千葉絶滅攻撃の激しさは弱点をもっている。

④「分割・民営化体制」粉碎とは、当局―革マル連合鉄道労連を解体することである。ストライキ決起そのものが、一企業一組合を粉碎する。

⑤スト方針のもとに新ためて結集し、全国へ闘いを広げよう！

―特別報告生口と討議論―

午後から、この間の国労ストについて、国労共闘・吉野代表が特別報告を行った。

「国労の四・一、四・九、四・一二ストには全国で二九四〇名が突入。やればできることを実感している。革マルへの怒りは深い。動労千葉と共に国労共闘は決起する」

闘いの方向性が鮮明になるなかで、討論がかわされた。

「抗議の集会、デモを連日たたきつけている。二八日に青年部定期委員会を開催する。」

「卑劣な脱退工作は許さない。執行委員会と抗議行動を繰り返している。闘いは始まっている。」

「一週間抗議行動を貫徹。支部激励会で激励された。駅には年休簿すらなかったが、直ちにとりよこさせた。やるぞ。」

強制配転された青年部員が「ストライキでがんばる」と決意表明。本区も抵抗闘争を貫徹している。もう黙っていられない。何かやらなくては。二八日に全青年部員を集めて団結集会をやる。

「四月中旬に支部で「団結花見をやった。賃金格差は許せない。貨物もスト激励行動をやる。」等々討論の最後に、清算事業団でがんばっている中村千葉転青年部長が「攻撃されているからこそ団結が固められる。闘いを拡大するチャンスだ。動労千葉の闘いはまちがっていないかった。これからもみんなでやるぞ」と提起した。

最後に、本部青年部三役が決意表明とまとめを行い、ストライキを中心とする闘う方針が承認された。つぎは二九日の臨時大会だ。総力で結集しよう！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

4/29オ14回
臨時大会

労働者福祉センター 10時～

4月29日・30日

午前10時～午後5時

高級紳士・婦人服

一流ブランド

春・夏物特別セール

千葉県労働者福祉センター